



(2) 住友グループ広報委員会

①沿革

1958年、「住友」をルーツとする企業グループへの信頼と好感を得るための広告活動の研究を目的に「住友PR研究会」が発足しました。以後「住友PR部会」（1962年）「住友グループPR委員会」（1969年）を経て1980年「住友グループ広報委員会」と改称し、現在に至っています。参加8社からスタートして、現在の参加企業は36社です。

②基本理念

400年の歴史に育まれ住友固有の「企業理念・企業文化」を持つ住友各社が、企業グループとして広報活動を行うことによって、住友グループへの信頼感の向上を図り、社会とのより良い関係を創っていきたいと願っています。

③主な活動内容

1) 英文広報紙「Sumitomo Quarterly」の発行

住友クォーターリーは住友グループ企業の知名度と評価の向上を目的とした英文の季刊海外広報誌です。テーマは日本人ならびにその総和としての日本の過去・現在・未来にわたる多岐な活動領域から選定しています。

1980年2月の創刊以来、国際社会との調和を常に心がける住友グループ企業の姿勢に基づき、一貫して日本を理解していただくために役立つ情報を取り上げています。

2) 一筆啓上手紙コンクール後援

福井県丸岡町、この北陸の小さな城下町を一躍有名にした町おこし事業「一筆啓上手紙コンクール」を住友グループは後援しています。

このコンクールは簡潔で要を得た手紙として有名な「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」にちなんでいます。この手紙は徳川家康の家臣・本多重次が陣中から妻に宛てて送ったもので、「お仙」は成長したのち、丸岡城主・本多成重となります。

住友グループ広報委員会では、グループメッセージ「大切なこと 人から人へ」の精神にかなう催しであること、また丸岡町が住友の家祖住友政友の出身地で、ゆかりが深いことなどからこのコンクールを1994年から後援しています。

3) インターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション (INC) 後援

交渉と仲裁を学ぶ学生に目標を提供し、審査を担当する実務社会で活躍している企業の方、法曹関係の方、指導教員との交流を深め、大学の枠内での授業では伝えることのできない何かを大学対抗戦をとおして学んでもらう大会です。

住友グループ広報委員会では同大会の主旨である「交渉に対する社会の関心を深め、若い人材を育成する」ということに共感し、大学を越えた対抗戦の場を設けることは「有意義なこと」と考え、第1回大会が開催された2002年から後援しています。

4) 全国盲学校弁論大会特別協賛

住友グループ広報委員会は「全国盲学校弁論大会」を応援しています。この大会は、1928年に毎日新聞社点字毎日の主催で開催されて以来、歴史を刻み続けた伝統ある大会です。

「自分の心を自分の言葉で伝えていく」本大会の主旨は私たちのグループ・メッセージである「大切なこと 人から人へ」の精神にまさに重なるものであることから、2003年から特別協賛しています。

5) ホームページでの活動

住友グループ広報委員会では、ホームページを通じて住友グループへの信頼と好感を得るための活動を行っています。(URL <http://www.sumitomo.gr.jp/>)

2010年4月より、住友史料館の資料協力により、住友四百年「源泉」と題して、住友の歴史を分かりやすく伝えるために漫画の形式で連載しています。

(3) 公益財団法人 住友財団

① 沿革

住友の事業は16世紀後半に、京都で、当時南蛮吹きと称された銅吹き（銅精錬）と銅細工を手掛けたことに始まります。その後、別子銅山（愛媛県）の経営に着手し、現在の住友の諸事業の礎となりました。

別子銅山は1973年に閉山となりましたが、1990年にその開坑300年を迎えるに当たり、開坑300年記念事業の一環として住友グループ20社の基金拠出を受けて1991年設立されました。

② 財団の目的

基礎科学、環境、芸術・文化、国際交流等様々な分野において、人類社会の直面する諸問題の解決・改善を目的とする研究および事業に対し、国際的な視野をもって、

時代の要請に適った助成を行い、もって人類の豊かな社会建設に資することを目的としています。

③主な活動内容

1) 基礎科学研究助成

重要でありながら研究資金が不十分とされている基礎科学研究、とりわけ新しい発想が期待される若手研究者による萌芽的な研究に対する支援を行うものです。

2) 環境研究助成

環境問題の解決のためには、多面的アプローチによる分析と様々な対応策の構築が必要と考え、そのためのいろいろな観点（人文科学・社会科学・自然科学）からの研究に対する支援を行うものです。

3) 文化財維持・修復事業助成

文化財保護の一助として、日本国内にある文化財（美術工芸品〈絵画・彫刻・工芸品・書跡・典籍・古文書・考古資料・歴史資料〉）の維持・修復事業を対象に、助成を行うものです。

4) 海外の文化財維持・修復事業助成

諸外国における文化財（美術工芸品および遺跡）の維持・修復事業と維持・修復に直接つながる事前調査を対象に助成を行い、人類共通の財産である文化財を後世に伝える一助にしようとするものです。

5) アジア諸国における日本関連研究助成

主として東アジア・東南アジア諸国を対象とし、各国の研究者による日本に関連する研究（日本研究、対象に日本を含む比較研究・国際関係研究・交流史研究等）を助成することにより、これら各々の国において日本理解を深めていただく素地を形成し、ひいてはアジア諸国と日本の間の相互理解増進の一助にしようとするものです。

④助成実績

(単位：千円)

年 度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	累計(1991年度~2009年度)
合 計	345,490	366,429	371,980	383,366	426,778	6,431,583
(助成件数)	(243件)	(258件)	(281件)	(262件)	(291件)	(3,932件)

*住友財団ホームページ (URL : <http://www.sumitomo.or.jp/>)